

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

* 乗鞍にあった TAMAYA のトランシット

8月4～5日、乗鞍コロナ観測所に歴史観測隊が入った。その報告はしかるべき筋から出るが、このレポートは中桐の関心が深いもの1点について報告する。天文情報センタープレハブ倉庫で TAMAYA CO. GINZA TOKYO と書かれた大砲のような望遠鏡の一部(写真1)らしいものを発見し、これが明治44年に東京天文台が測量器械メーカーの玉屋に発注して製作された日本製最初の本格的な天文観測器械の天文経緯儀望遠鏡であった数奇な物語を紹介した事がある。その勇姿は図1のようである。



写真1 発見された経緯儀の望遠鏡部



図1 TAMAYA の天文経緯儀

この TAMAYA の天文経緯儀は、今や収集のすべも無く復元できない事が非常に残念なのであるが、このたびの乗鞍コロナ観測所探検で TAMAYA のトランシットを見て感慨深いものを感じたのである。TAMAYA は日本の測量器械メーカーの老舗である。その TAMAYA のトランシットが目の前にあった。写真2がその TAMAYA の刻印である。



写真2 トランシットの TAMAYA の刻印

玉屋は延宝3年(1675年)、玉屋藤左衛門が玉屋を屋号として眼鏡屋を開業し、明治に入り、測量器械の輸入を手がけ、明治26年には度器の製造免許を受け、明治末期には完全なトランシットを完成させている。その玉屋の歴史を感じさせるトランシットの全体像が写真2である。



写真2 重厚な歴史を感じさせる TAMAYA トランシット



写真3 トランシットの入っていた木箱

写真4が水平軸目盛環である。磁石が併設されている



写真4 トランシットの水平軸目盛環

この器械は、ひょっとして昭和24年、乗鞍コロナ観測所が建設される際、この地点の経緯度を出すために用いられたのであろうか。玉屋が測量器械の老舗という知識はあっても、実際にはニコンなどのトランシットしか見たことが無かったので特に感じ入ったのであった。このトランシットの箱には地理調査所とある、どういった経緯で東京天文台のものになったかは知らない。